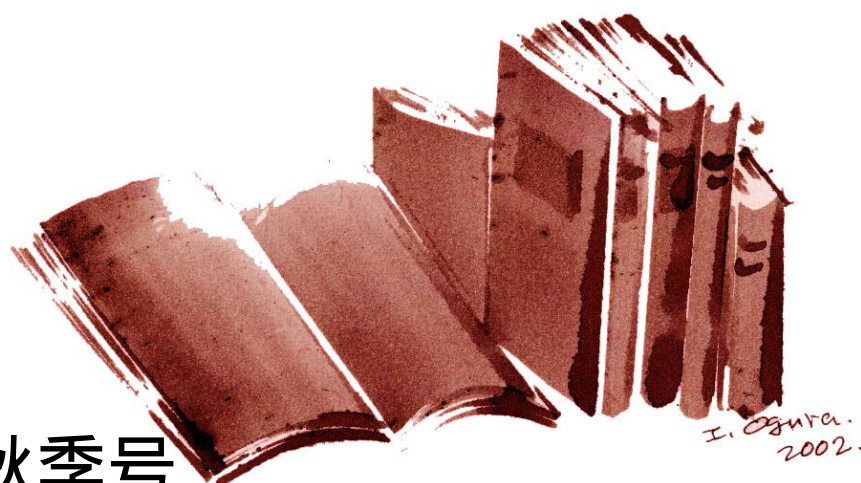


神戸大学附属図書館報

The Kobe University Library Bulletin Vol.12 No.3



秋季号

October 2002

目 次

大学の顔、大学の頭(図書館運営委員 中谷武)	p 2
BOOKS・BOOKS 自著を語る	p 4
宇賀 昭二(医学部保健学科教授)	
窪園 晴夫(文学部教授)	
[図書館のご紹介] 人文・社会科学系図書館	p 5
神戸大学電子図書館の現状と今後の課題	p 6
各図書館室のホームページ紹介	p 8
秋の図書館ガイダンスのお知らせ	p10

=== 大学の顔、大学の頭 ===

中 谷 武

2年前、イギリスに半年滞在した。そのとき通ったのがLSE(London School of Economics)の図書館である。荘厳な石造りのドーム状の図書館で、メインの閲覧室は両サイドが3階建てで、真ん中が吹き抜けになっていて、真っ正面に大きな時計がかかっている。ちょうど教会にいるような雰囲気である。あるとき試験の真っ最中で、アベックの学生たちがワイワイガヤガヤと雑談を始めた。「うるさいな」と思った頃、少し離れた席で本を読んでいた年輩の紳士がツカツカと近づき“ This is the Library. ”と一喝した。学生は恐縮してピタッと話を止めた。決して注意する方、あるいは注意された方が、逆上して相手をののしったり、無視したり、ということはない。しかも、このような光景は稀で、半年居て2、3度目にした程度である。基本的に静寂は保たれている。

ふかふかした絨毯の上にたくさんの机があって、試験中以外はのんびりと座れた。すべて開架式で学生は自由に本を手にする。検索用の端末も、カード式のコピー機も使いやすい。学生は各自1枚コピーカードを持っていて、足りなくなればコインを入れて追加する。疲れると、コーヒーと軽食の休憩ルームがある。LSEの休憩室はもうひとつだが、近くにたくさんマクド店がある。ここで食べた1ポンドのマクドは大丈夫だったのだろうか、BSEが気になるところである。それはともかく、必要な本や雑誌はすべて揃っていて、完全に自分の自由になる。このような場所が朝の9時から夜の11時まで提供されているのが大学である。

完備した設備と静寂、これは少ないながらも私が経験した外国の図書館の共通した印象である。もう20年も前に滞在したアメリカ東海岸のY大学のS記念図書館、これは実に見事だった。地上15階地下1階の荘厳なゴシック風建築で、ステンドグラスに見とれているだけで時間が経つ。あるとき、エレベーターで尖塔探検を試みると、写真に見たケルンの大聖堂を思わせる石造りであった。何階か忘れたが、白土三平「カムイ伝」全21巻を見つけて、感激した。彼らは世界の重要な図書はすべて所蔵する全米第2位の大学図書館だと自慢していた。西海岸のC大学D校の図書館は一転して近代的な大ビルディングであった。とにかく大きくて、図書館の中を歩きながら本を探すだけで、1日8000歩ぐらいにはなって良い運動になる。外へ出ると明るく広い芝生が広がっており、そこに寝転がってパンをかじっていると、誰も日本に帰りたくなるのである。

外国の図書館で感じるのは、図書館こそ大学の顔であり、頭であるということだ。大学の一番目立つところに、一番立派な形をしてデンと位置しているから顔だし、深

遠な思考を、するかどうかは別として、出来る環境を整えている場所だから、頭でもある。朝、学生が来て、まず立ち寄ってみたいくなる魅力、昼疲れた学生が立ち寄りたくなるゆとり、静かに考える人が求める静寂、このような存在感が図書館に必要な。図書館は学ぶ人間に一番必要な環境である。私の恩師、置塩先生が「本は買っておきなさい。今読まなくても、横にあればいつか読む。」と言われた。私はこれを私の子供に実行した。ただし、買わずに図書館で借りたのである。一家4人で一人5冊計20冊をいつも市立図書館から借りてきて、テレビの横に置いた。効果てきめん、子供は本を読むようになった。しかし、困ったことが起こった。本を読むときに、いつもテレビをつけるのである。それはともかく、環境は大切である。

さて、神戸大学の図書館は顔として立派か、頭として十分か。顔も頭も悪くない、マーマーだと思う。しかし、特に外国と比較すると、見劣りがする。どうしたらよいのか。答えはひとつ。出し惜しみせず、カネと人を遣うことだ。図書館は大学の顔であり頭であるが、日本という国にとっても顔であり頭であるとの位置づけがされていない。国や企業はもっと文化と教育にカネを遣うべきである。必要なことに十分なお金を、これが結論である。

(P.S.私が驚いた LSE 図書館は仮の住まいであった。昨年、本図書館ライオネル・ロビンズへ引っ越している。本館の偉容は下記の URL で見て下さい。あまりの素晴らしさに声も出ません。)

<http://www.lse.ac.uk/library/abthli/LibraryAnnualReport2001.pdf>

(なかに たけし 図書館運営委員：経済学研究科)



『身近な寄生虫のはなし』

宇賀昭二、木村憲司著(技報堂出版 2002.5)

「寄生虫は好きか?」。1年間の講義・実習の開始に際してこう尋ねた時、首を縦に振る学生は少ない。しかしである。講義が進行し、実習が始まる頃になると学生の反応は明らかに違って来る。積極性が増し、学生の書くレポートには「寄生虫に興味が増えました」という感情があふれるようになる。

寄生虫とはそういったものである。世間のイメージから忌み嫌われるものの代表格に位置する。事実、寄生虫のヒトに与える病害の程度は決して座視できるものではない。しかし視点を変えてこれらを見ると、確かに興味の対象とはなり得る。寄生虫は賢いのである。

よくまあそんな生き方を見つけたものだと心から感心させられる。形状も捨てがたい。顕微鏡下でみせる彼らの姿には思わずほほえまずにはいられないものもある。さらに寄生虫は我々の教師になり得る。著者は彼らから南北問題の重要性を教わった。北の国に住む我々は、寄生虫症は自分たちには無縁であると考えてはいないだろうか?南の国に住む人たちの苦悩を理解しようとしているだろうか?

本誌では我々の周辺で頑張っている「身近な寄生虫のはなし」をちょっとふざけた小見出しをつけて紹介してある。寄生虫に興味を持ってほしいと願って真剣に書いたものである。

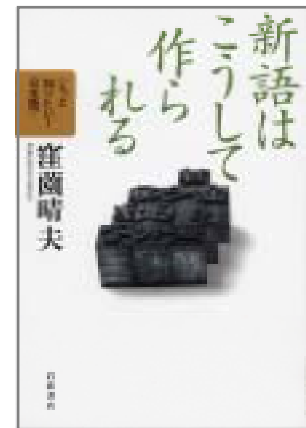
(うが しょうじ 医学部保健学科教授)

所蔵：名谷分室 491.9-U



BOOKS BOOKS

—自著を語る—



『新語はこうして作られる』

窪園晴夫著(岩波書店 2002.7)

子供は生後数年で自分の母語を獲得しますが、その過程において瞬く間に数多くの単語を獲得できるのはなぜでしょう。その背後には、「手」や「目」のような単語を一つ一つ根気強く覚えていく一方で、一つの語から別の語を作り出す規則(語形成規則)を要領よく覚えていく過程が存在していると考えられています。昔の造語では「浜+栗」から「蛤」、「気障り」から「きざ」、「ピカリ」から「光」が作り出され、現代でも「マクドナルド」「気色悪い」「真面目」から「マクる」「きしよい」「マジ」などの派生語や短縮語が盛んに作り出されています。時代は違っても、単語の作り方には時代を超えた共通性があります。

この本は「獣」(<毛+物)や「湖」(<水+海)のような昔の造語から、「ハリポタ」

や「IT革命」「オッハー」「めっちゃ、くやしい」「モー娘。」「ホリケン」のような最近の造語・流行語・若者言葉までを題材に、日本語に新しい言葉が生まれる過程を考察し、その過程の背後にある原理や規則を一つ一つ解説したものです。近年の日本語ブームの中で言葉の語源や流行語などが注目されていますが、この本はそのような豆知識を提供しようとしたものではなく、日常使っている単語の中に、言語の一般的な原理や規則が織り込まれていることを解き明かそうとしています。

この本を読んで面白いと思った方は、拙著『日本語の音声』(1999, 岩波書店)も読んでみて下さい。発音の世界にも自然科学と同じような法則・秩序があることがわかっていただけたと思います。

(くぼぞの はるお 文学部教授)

所蔵：人文系図 814-7-KUB

[図書館のご紹介]

人文・社会科学系図書館

人文・社会科学系図書館は、六甲台地区の正門をあがって西は法学部、東は経済経営研究所との間にあります。経済学研究科経営学研究科の本館、経済経営研究所、講堂ともに、神戸大学の前身校、神戸商業大学時代の建物です。戦後何回か増改築が行われましたが、高い天井やステンドグラスなど創建当時の様子を残しています。館内正面には、神戸高等商業学校卒業の中山正実画伯による壁画「青春」があり、これは我が国で最大級のものであります。

法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科の教官および院生と法学部、経済学部、経営学部の学生を主なサービス対象として関連する図書を多く収集、戦前からの蔵書を含む約120万冊の図書を所蔵しています。また神戸大学の全学部の博士論文と4研究科の修士論文、科学研究費成果報告書等も所蔵しています。貴重書としては、印刷出版された世界最古の会計書といわれる「Summa」、海事関係の古文書が多くある「住田文庫」、摂州花隈村の近世資料としての「村上文書」等があります。

図書館内部の建物の1階は開架室でジャンルにより3つの部屋にわかれています。学習用図書を中心においてあり、辞書・統計等の参考書もあります。奥には利用者用検索端末とコピー機があります。当日の新聞はここにおいてあります。

2階は、カウンターです。貸出・返却、閲覧、複写等あらゆる窓口になっています。カウンターのうしろが書庫で、教官と院生は入庫できます。南側は大閲覧室です。1階と2階の閲覧室および外国雑誌センターには情報端末のコンセントがあります。カウンター前には、利用者用検索端末と和雑誌の最新年度のものがあります。東の廊下には、法学関係や新聞記事等の検索端末があります。

廊下の東側に、外国雑誌センターと震災文庫があります。昭和61年より全国共同利用機関として人文・社会科学系の外国雑誌センター館に指定され、約2,300種の外国雑誌を配置しています。平成7年の阪神淡路大震災では多くの被害がありましたが、その直後から「震災文庫」として震災に関連する資料の収集を始めました。多数の方々から地震に関する図書だけでなくいろいろな種類の資料を寄贈していただき、現在も日々増加しております。

来年、図書館の北側に総合研究棟が建設、そこに人文・社会科学系図書館が増築されます。研究者用の閲覧室、書庫、プレゼンテーションホールなどが設けられ、また外国雑誌センターをそちらに移設する予定となっています。詳しくは追ってお知らせしますので、竣工しましたら大いにご利用下さい。



カウンター風景（バックに大壁画「青春」が見える）

神戸大学電子図書館の現状と今後の課題

現在、神戸大学電子図書館システムは「震災関係資料」と「新聞記事文庫資料」、「学内研究成果等資料」の3つを中心に電子化が進められています。

(1) 震災関係資料

神戸大学附属図書館が収集・保存・一般公開している「震災文庫」の所蔵資料(約27,000件)をデジタル化の対象としています。Webでのアクセス件数は月平均4000回、14年の1月には7500回以上のアクセスがあり、約90%が学外からのものです。特色としては資料が多様で画像やテキストだけでなく音声や動画も含まれていることがあげられます。

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/index.html>

(2) 新聞記事文庫資料

「新聞記事文庫」は、神戸大学経済経営研究所によって作成された明治末から昭和45年までの新聞切抜資料で、切抜帳は約3200冊、記事数は約50万件です。図書館では、そのうちの明治末から昭和18年までのもの約2500冊、記事数は約38万件をデジタル化の対象としています。現在約8万コマが公開済みで、特色としては画像以外に旧字体を新字体(現在の常用漢字)に直した全文テキスト化を行っていることなどです。研究者の間ではかなり注目されている資料です。

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/index.html>

(3) 学内研究教育成果等資料

各研究室との協力作業による研究・教育成果資料のデジタル化を目指すものです。現在

「中川家文書」<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/products/nakagawake/index.html> (2002.8 全点公開)

「瀬戸内海海藻類標本」<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/products/algae/index.html>

「解剖学教科書」<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/products/anatomy/index.html>

に取り組んでいます。

(中川家文書)

No.	年月日	文書名	内容	サイズ	操作
1	天正八年 (1580) 九月十七日	織田信長朱印状	織田信長の中国毛利攻めに関するもの(解題)	【文書】287×422cm 【包紙】(1通入り包紙) 246【袋】(16通入り袋)	【小画像】 【大画像】 【小画像(95KB)】 【大画像(95KB)】
2	(天正十年) (1582) 四月廿三日	羽柴秀吉書状	織田信長の中国毛利攻めに関するもの(解題)	【文書】(320×500cm) 【包紙】(1通入り包紙)	【小画像(78KB)】 【大画像(172KB)】 【小画像(55KB)】 【大画像(95KB)】
3	(天正十年) (1582)	羽柴秀吉書状写	天正十(1582)年の山崎の戦いに関するもの(解題)	【文書】157×397cm 【包紙】(1通入り包紙)	【小画像(95KB)】 【大画像(78KB)】

本多数の画像があります。
[中川家文書トップページに戻る](#) [文書一覧へ](#)

今後の展開と課題

より多くの震災資料（全文）を公開

震災資料を全文デジタル化して公開するためには著作権者の許諾が必要となります。震災から8年近く経とうとしているため許諾を取得する作業は年々困難となって来ていますが、図書館ではこれからも、より多くの方に震災資料を見ていただくために許諾の推進と様々な形態の資料のデジタル化を展開していきます。

新聞記事文庫デジタル化継続

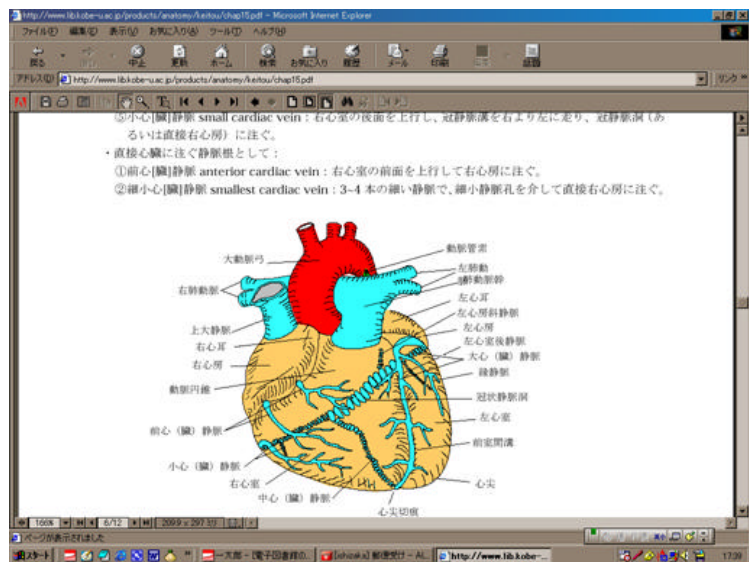
前述したように「新聞記事文庫」は膨大な記事数であり、完成までにはかなりの年月が予想されます。しかし戦前期の旧植民地を含めた新聞切抜としては他に例を見ない貴重な資料ですので今後も全文テキストを含むデジタル化を継続していきます。

学内生成資料の一層のデジタル化推進

(系統解剖学講義ノート)

今後、研究成果等学内生成資料のデジタル化、そして学外への発信を一層進めていきたいと思っています。特に医学研究科神経発生学の寺島教授の協力を得て、研究プロトコル集、大学院の特別講義資料等をデジタル化していく予定です。また、学位論文をどのような手順でデジタル化し、公開していくかについての調査・検討も進めており、実験的に一部の学位論文を公開出来るように研究室に協力を要請しているところです。

なお、附属図書館ではデジタル化の可能な学内の研究・教育成果（学内生成資料）を募集しています。希望される方は電子情報掛までご相談下さい。djoho@lib.kobe-u.ac.jp



電子図書館システムを更新

平成15年の2月に現在の電子図書館システムが更新されて新システムが導入されます。次期システムでは新しくGIS(地理情報システム)、ストリーミングサーバー、XMLデータベースなどが予定されています。新しいシステムにもご期待下さい。

・GIS(地理情報システム)

地図上をマウスでクリックすることで対象物(街区、建物など)を特定し、その属性情報(画像、音声等)を表示する事が可能です。

・検索性能の向上

より高度できめ細やかな検索をめざし、データベース構造の抜本的な見直しを行います。
(電子情報掛)

各館室のホームページ紹介

医学部分館ホームページ

6月21日にホームページを改装しました。以前は、必要なものがすぐクリックできて、慣れ親しんでいた方々も多かったと思うのですが、今回は目の前のメニューを減らすことを目指しました。

構図的にはまだ見にくい点が多いのですが、利用する目的ごとにメニューを分けています。医学部分館独自の「電子ジャーナルリスト」や「雑誌所蔵リスト」を生かすためにも、また、OPAC や NACSIS Webcat 等の違いがわかりやすくなればと、見出しを付けて分けてみました。検索データベースの違いを混同される利用者も多いので、それぞれに簡単な説明も付けてみました。

医学部分館で発行している「図書館だより」は、今までは発行内容を編集し直して、パソコンで見やすくしていましたが、今回からは、PDFファイルで掲載しています。PDFファイルについては賛否両論あるところですが、発行している形態そのままを利用してもらうのも利点があるのではないかと思います、変えてみました。

時々質問を受ける、ホームページ真ん中にある画像ですが、岡田安弘名誉教授が寄贈くださった医学部分館のシンボル、スタンドグラスです。クリックしていただくと、岡田先生の寄稿が読めます。現物は玄関入った正面にありますので、来館の折には是非ご覧下さい。（医学部分館）



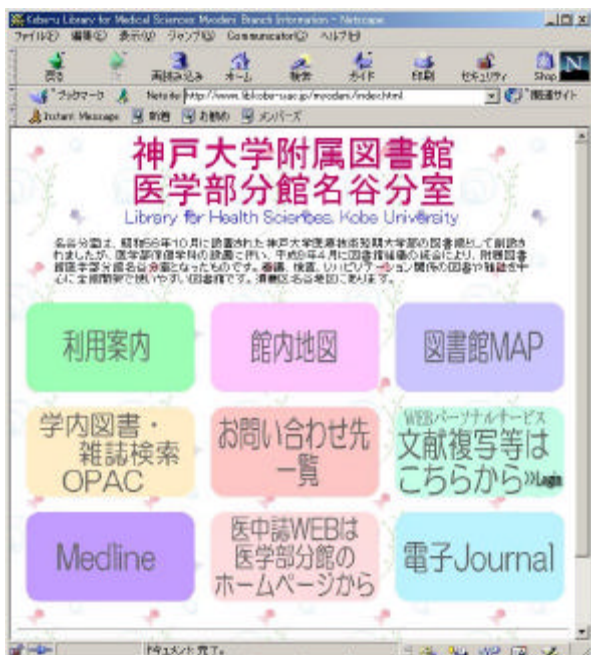
名谷分室ホームページ

ご覧になったことありますか？ 医学部分館名谷分室のホームページを!!

神戸大学では昨年よりシステムが更新されました。WEBサービスの幅がグーンと広がったため、ホームページも更に利用者の声を取り入れて使いやすくしました。またこの館報の企画にあたり医学部分館名谷分室が六甲台・楠地区と離れているため“どなたところ？”“どんな図書館？”とちょっと興味を持っておられる方にも紹介できるように画像を取り入れグレードアップしました！

まずはクリックしてみてください。

新しい世界が広がるかも・・・ご利用お待ちしております。（名谷分室）



国際教養系図書室ホームページ

国際教養系図書室のホームページでは、図書館全体のホームページに収まりにくいローカルな情報を提供しています。主な内容は国際教養系図書室に関する新着情報と利用案内、そして所蔵資料のリストです。

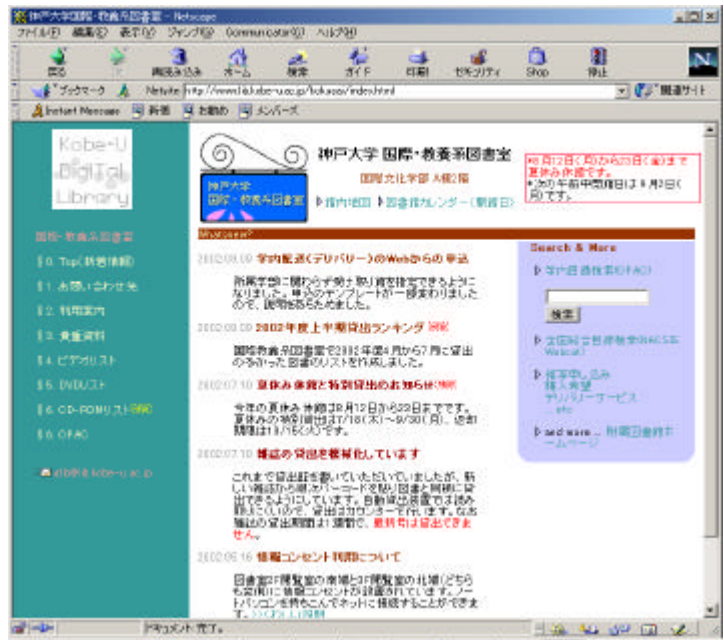
新着情報では休館日のお知らせや、雑誌貸出の機械化のような新しいサービスについてのご案内をしています。またトピックとして「貸出ランキング」を掲載していますが、これは半期ごとに更新していく予定です。

利用案内はほぼ各館共通の内容ですが、当室の利用者向けに補充していきます。

所蔵資料リストは当室で所蔵する貴重資料、ビデオ、DVD、そしてCD-ROMのリストです。貴重資料はまだリストにはなっていません。専門の先生のご意見をうかがいつつ、所蔵貴重資料を紹介していきたいと思ひます。

当室は映画ビデオとDVDの所蔵が全学で唯一の量ですので、ビデオ/DVDリストは利用価値があるリストになっていると思ひます。CD-ROMは当室に設置した専用パソコンで利用できるもののリストです。

当室の利用マニュアルとなるようなホームページを目指しています。（国際・教養系図書室）



附属図書館日誌（2002年7月～9月）

- 7.1 第101回兵庫県大学図書館協議会総会（神戸山手大学・女子短期大学）
- 7.2 第2回学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会（文部科学省）
- 7.3 平成14年度第2回附属図書館運営委員会
外国雑誌センター館会議（国立情報学研究所）
- 7.8～7.26 大学図書館職員長期研修（渡邊企画掛長、図書館情報大学他）
- 7.11 神戸大学電子図書館システム委員会
- 7.19 メテータタペ-ス構築システム試行運用連絡会議（国立情報学研究所）
- 7.22 平成14年度第1回電子ジャーナル導入検討委員会
- 8.2 電子図書館システム技術審査委員会
- 8.20 電子図書館システム技術審査委員会
- 8.26 法人格取得問題に関する附属図書館懇談会（東京大学）
- 9.2 平成14年度第2回電子ジャーナル導入検討委員会
館長・副館長懇談会
- 9.9～9.27 図書館情報大学学生実習受入

秋の図書館ガイダンスのお知らせ 2002年10月～11月の予定

論文・レポート作成のための情報検索の初歩

会場：自然科学系図書館3F 研究閲覧室

時間：毎日 13:30～ と 15:30～の2回 各1時間程度

10月

日	月	火	水	木	金	土
13	14	15	16	17	18	19
13:30 15:30		Current Contents 科学技術文献速報	新聞記事検索 CAonCD	MathSciNet PubMed	雑誌記事索引 PsycINFO	
20	21	22	23	24	25	26
13:30 15:30	EconLit Readers' Guide	Business Peri. Index 電子ジャーナル	Index to Legal Peri. Agricola	雑誌記事索引 人を探す (DNB, DAB, Who's Who 岩波 Cambridge 世界人 名辞典)	ERIC Current Contents	

11月

日	月	火	水	木	金	土
17	18	19	20	21	22	23
13:30 15:30		Current Contents 科学技術文献速報	新聞記事検索 CAonCD	MathSciNet PubMed	雑誌記事索引 PsycINFO	
24	25	26	27	28	29	30
13:30 15:30	EconLit Readers' Guide	Business Peri. Ind 電子ジャーナル	Index to Legal Peri. Agricola	雑誌記事索引 人を探す (DNB, DAB, Whos' who 岩波 Cambridge 世界人 名辞典)	ERIC Current Contents	

参加するには予約が必要です。先着10名まで。
希望者は各館室のカウンターで申し込んで下さい。
予約は電子メールでも受け付けます。literacy@lib.kobe-u.ac.jp まで。

詳細は掲示、図書館ホームページでお知らせします。

【編集後記】 今年も暑い夏でしたね。夏休みも終わり、今月から後期となります。卒論や修論、レポートなど課題が多くなってきますが、そのための文献検索に図書館活用が望まれます。今月から来月にかけて情報検索ガイダンスを行います。

神戸大学附属図書館報 Vol.12 No.3 (通巻第47号) 2002(平成14)年10月1日発行
編集・発行 神戸大学附属図書館 神戸市灘区六甲台町2-1(〒657-8501) 電話(078)881-1212(代)